

久留米大学を受診した患者さんへ

「循環器疾患患者における運動能評価における TUG の有用性」の研究に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：平成 26 年 7 月～平成 26 年 11 月
- 2) 受診科：循環器内科
- 3) 対象疾患名：冠動脈疾患、開胸術後、心筋症、心臓弁膜症、不整脈、大血管疾患
- 4) 使用する試料：運動負荷試験、心臓リハビリテーション評価

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：リハビリテーション部
研究責任者理学療法士 岸本迪也

研究分担者

久留米大学医療センター リハビリテーション部 理学療法士 塚田裕也

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 准教授 高野吉朗

医学部内科学（三）講座 久留米大学医療センター循環器内科 講師 原田晴仁

医学部内科学（三）講座 久留米大学医療センター循環器内科 講師 新山寛

医学部内科学（三）講座 久留米大学医療センター循環器内科 医師 西山安浩

医学部内科学（三）講座 久留米大学医療センター循環器内科 准教授 加藤宏司

医学部内科学（三）講座 久留米大学医療センター循環器内科 教授 甲斐久史

久留米大学 整形外科科学講座 講師 松瀬博夫

久留米大学 整形外科科学講座 教授 志波直人

2) 研究の意義と目的：

高齢者の身体機能を評価する簡便な方法として Timed up and go test（以下、TUG）がある。TUG は高齢者の歩行速度、ADL 遂行能力、転倒リスクとの関連性が高く、動的バランス機能を簡便に評価することができるといわれている。しかしながら、循環器疾患の運動能と TUG との関連の報告は少ない。循環器患者の運動耐容能の評価は、6 分間歩行試験や心肺運動負荷試験にて行うが、これらの検査は心肺機能への負担が大きく、検査困難な症例も少なくない。そこで、循環器患患者の運動能評価法としての TUG の有用性を検討することである。

3) 研究の方法

心臓リハビリテーションを行う患者に対し、心臓リハビリテーション評価を実施し臨床検査にて心肺運動負荷試験を行うことができた方の身体機能の把握や治療内容についての検討を行います。

4) 研究期間：平成 28 年 11 月倫理委員会承認後～平成 33 年 10 月迄

5) 上記の試料の使用を選定した理由

心肺運動負荷試験を行った患者の症例を判定、検証することで、適切な理学療法を提供が可能となり、治療効果の向上へ繋がります。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について

今回の研究で得られた情報は厳密に管理され、プライバシーに関する個人情報は保護されます。取得した個人情報を、個人が特定されるような形で公表することはありません。

7) 研究成果の発表の方法

本研究での研究成果は、学会等での発表及び論文により学術誌への発表を行う予定である。

8) 利益相反

本研究は特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学医療センター リハビリテーション部 理学療法士 岸本迪也
〒839-0863 福岡県久留米市国分町 155 番 1 号
TEL 0942-22-6721 FAX 0942-22-6538 (直通)